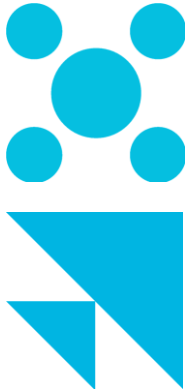
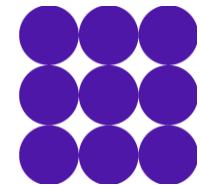
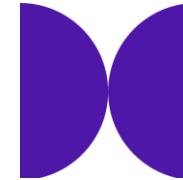
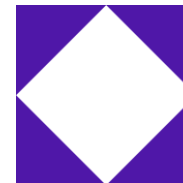
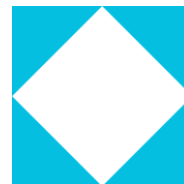


AI@Work

AI4PMの活動について

2024年12月 スポンサー連絡会

AI4PM



発表者紹介

■氏名

三五 大輔 (サンゴ ディスケ)

■所属

AI@Work WG2(AI4PM)活動 リーダー

■略歴

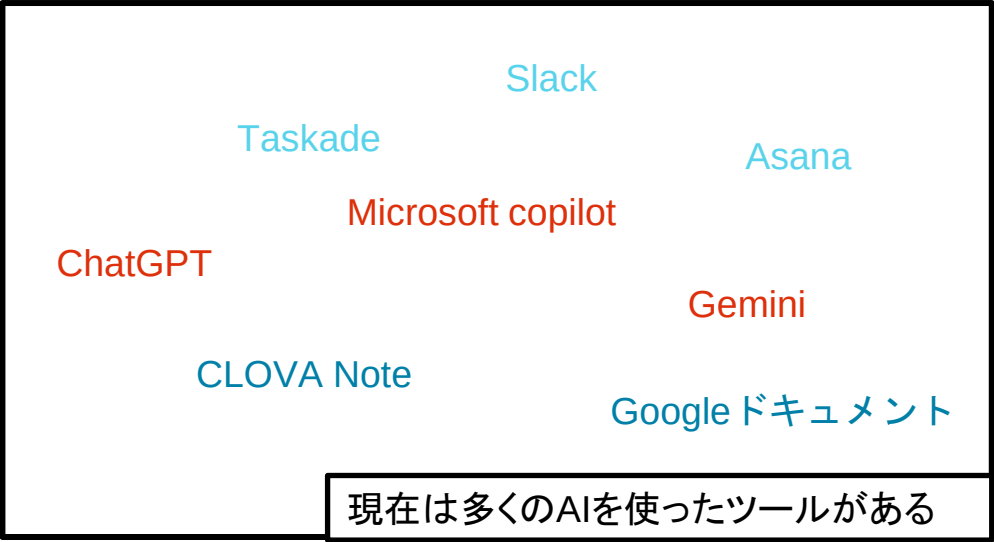
AI@Workの発足時(2020年1月)からAI@Workに参加。当初はWG2とWG3に参加し、2020年11月にG検定に合格。その後、WG2のみに参加し、2024年よりWG2のリーダーに就任。

Agenda

1. AI4PMの活動背景と方針
2. プロジェクトマネジメント領域におけるAIレベル定義
3. プロジェクトコモンデータモデルの検討
4. 2024年の活動の振り返り
5. AI4PMが考える将来

AI4PMの活動の背景

①



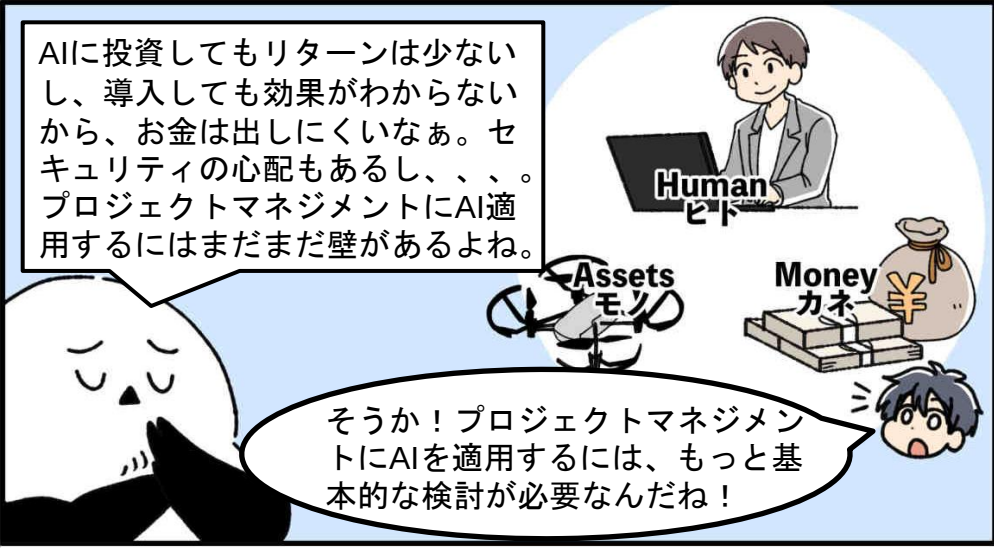
③



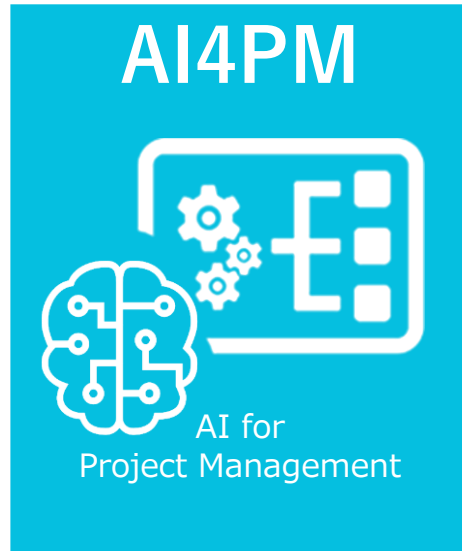
②



④



2024年のAI4PMの活動方針



WG2の全体目的

プロジェクトマネジメントを最適化するために、
AI技術の適用方法を研究する

2024年活動の具体的な内容

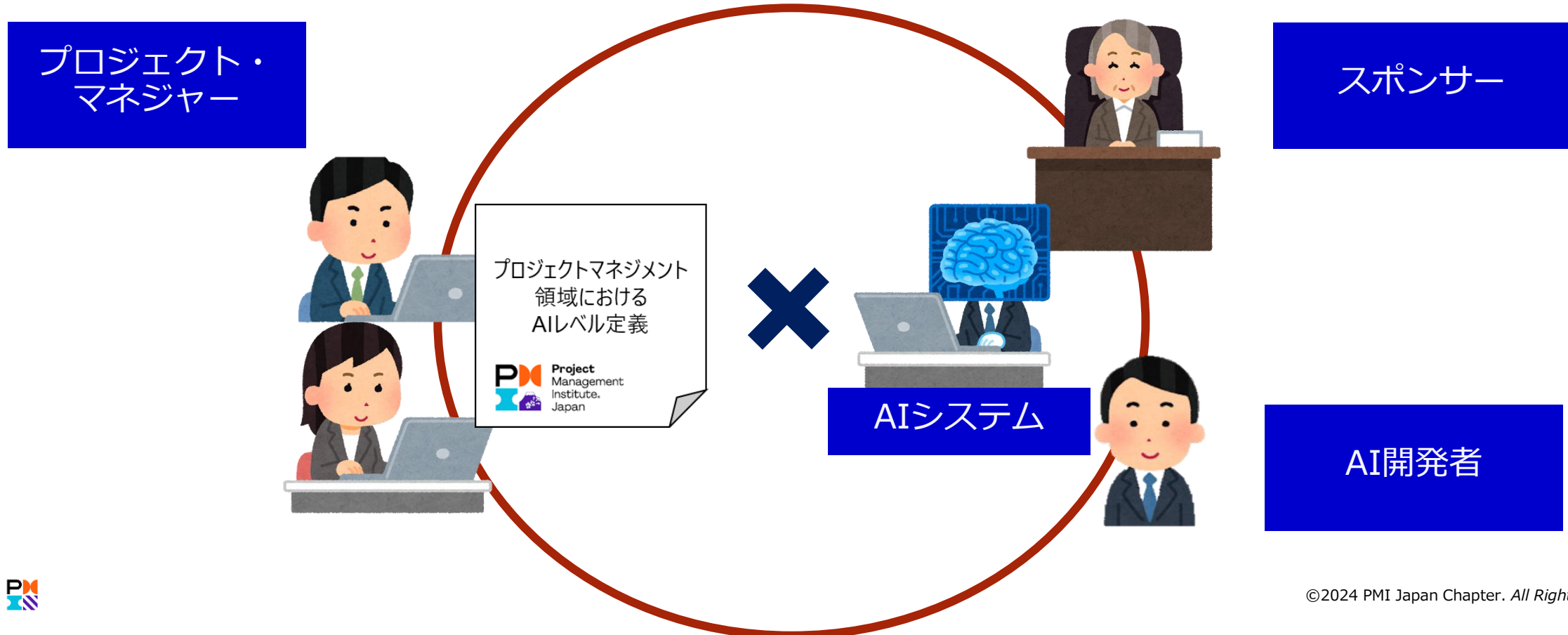
- ① プロジェクトマネジメント領域における AIレベル定義の深化 と プロジェクトマネジメント分野におけるAIの活用例の収集 (SubA中心)
- ② AI領域における プロジェクトコモンデータモデルについての検討 (SubD中心)
- ③ 人材領域における AI適用の検討と試行 (SubC中心)
- ④ AI4PMとしての ステークホルダーへの情報提供が可能な内容の再整理 (WG2全体)

プロジェクトマネジメント領域における AIレベル定義(以降AIレベル定義)について

プロジェクトマネジメント領域におけるAIレベル定義とは

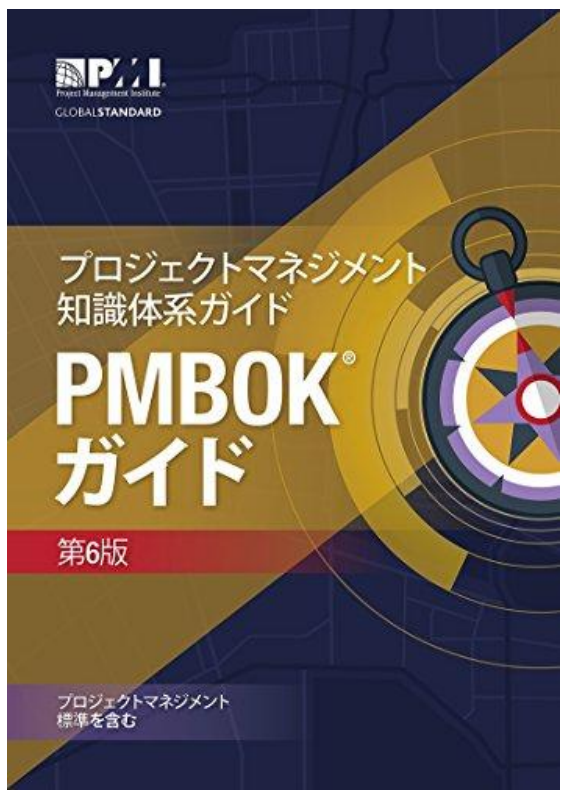
AIレベル定義とは、「プロジェクトマネジメントのツールと技法」に対する「自動化レベルの指標」

⇒プロジェクトマネジメント活動が自動化されたレベルを明確に分類できる指標
ステークホルダー間の共通認識醸成のために作成



プロジェクトマネジメント領域におけるAIレベル定義の構成

プロジェクトマネジメント方法論と自動化レベル仕様(自動運転を参考)のかけ合わせ



レベル0	情報管理のみで、特に 制御をしない
レベル1	単純な制御 アルゴリズムで作動する
レベル2	パラメータの組合わせを状況に合わせて選択する
レベル3	プロジェクト・マネジャーが学習法を指定すること で 対応パターンを増やしていく
レベル4	より多くのパターンに対応するため取得したデータから 自ら仮説を検証し、学習を繰り返して対応パターンを増やしていく

プロジェクトマネジメント
の方法論

自動化レベルの指標



プロジェクトマネジメント領域におけるAIレベル定義の構成

レベルごとに概念と具体例を説明。10の知識エリアごとに作成

レベル	概念	具体例
レベル0	個々の作業に対するスケジュール情報を管理するのみ 個々のスケジュール情報を更新したら、更新した情報を参照できるが、スケジュール全体の影響範囲は判らない	・作業リストを作成・更新 ・個々の作業の期限 ・工程計画を更新すると、影響する工程の日程情報を手動で更新する必要がある
レベル1	スケジュールを自動で調整を行う	・工程の担当の山 ・工程の日程を変 ・日程を設定するな
レベル2	スケジュールが遅れたり、必要に応じたアクションを自動で選択し処理する	・SPIが閾値を超えたら、工程延長か、残業対応か自動で選択し処理する
レベル3	過去のスケジュール遅延結果をスケジュールの閾値などを超える可能性を判断して処理する	・PM、トラブル発生量等複数のパラメータが工程延長が最適か、残業対応が最適かを判断する
レベル4	過去のスケジュール更新情報の他に、プロジェクト関係情報を与えておくと、自動的に特徴量を特定し、スケジュールの閾値などを超える可能性を予測し、必要に応じたアクションを判断して処理する	・リスク消込失敗情報と工程担当者特性の相関性を見抜き、スケジュール遅延を予測し工程延長が最適か、残業対応が最適か判断し複数検討し、スケジュール最適解を提案する

自動化レベルに合わせた
ツールと技法の
アウトプットイメージ

概念から考えられる
事例

10の知識エリアごとに作成

AIレベル定義の必要性(AIレベル定義がない場合)

多様化するプロジェクトでは、会話する人間の出身業界やマネジメント技術や知識の差により、実現方法や会話内容の理解が異なる



プロジェクトマネジメント活動をAI化するにあたり、「どの様に・どこまで自動化するか」といった実現論になると、その認識・認知Gapは激しい。

会話していくための、共通認識となる基準と基軸が必要

AIレベル定義の必要性(AIレベル定義があると、、、)

共通認識となる基準と基軸であるAIレベル定義があると・・・会話がかみ合う！

スケジュールの自動化レベル2の仕組みで、SPIが閾値を超えると自動で日程変更を出してくれるシステムが欲しい

週報の記載から、過去不適合に該当する記載があれば「リスクアラート」を出し、対処方法を提案してくれるシステムが欲しい。
リスクの自動化レベル3か4になると思うが、この点は実現性検証をして決めてほしい。

今使っているスケジュールツールに、SPI監視バッチと、バッチ結果をトリガにしたリスクロジックを動かしましょう！

不適合登録システムなら、トラブル種別が選択式なので、基本的にレベル3で対処できると思います。
一方、週報内容の言語処理がどこまで可能か、実データで検証をしてみて、開発規模を決めましょう

プロジェクト・
マネジャー

AIシステム
エンジニア

AIレベル定義の普及活動(その1)

AIレベル定義の普及に向けて、PMI日本支部のHPにて公開中。

<https://www.pmi-japan.org/aiatworkcommunity/page-89/>

- ・ AIレベル定義V1.0
- ・ AIレベル定義補足資料
- ・ AIレベル定義のFAQ(次ページで詳述)を公開

AIレベル定義

AIレベル定義とは

AIレベル定義の作成目的

多様化するプロジェクトでは、会話する人間の出身業界やマネジメント技術や知識の差より、実現方法や会話の内容の理解が異なります。



プロジェクトマネジメント活動をAI化するにあたり、ステークホルダー（例えばプロジェクトマネジャーとAIシステムエンジニア）の間で「どのように・どこまで自動化するか」といった実現論になると、その認識・認知Gapは無視できません。

そこで、ステークホルダー間で認識・認知Gapを埋めるために共通認識となる基準と基軸が必要となります。AI4PMでは、AIレベル定義は自動運転のレベル分けを参考に、マネジメント技術や知識の差があっても共通認識となる基準／基軸のためにAIレベル定義を作成いたしました。

AIレベル定義の全体構成

AIレベル定義は、「プロジェクトマネジメントのツールの技法」に対する「自動化レベルの指標」として、プロジェクトマネジメント活動が自動化されたレベルを明確に分類できる指標として作成いたしました。



AIレベル定義の普及活動(その2)

AIレベル定義の公表後のフォーラム等での質問をベースに、よくある質問と回答をFAQとしてまとめ、PMI日本支部のHPにて公開中。

<https://www.pmi-japan.org/aiatworkcommunity/page-89/page-208/>



AIレベル定義Frequently Asked Questions(FAQ)

AIレベル定義に寄せられる代表的な質問とその解答をFAQとしてまとめました。FAQは随時追加していきます。

No.	質問	解答
1	AIレベル定義はPMBOK第7版に対応していますか？	PMBOKの第6版と第7版の一つの違いは、10の知識エリアから8つのパフォーマンス・ドメインとなったことですが、両者間で項目は大きく変わらないため、第7版にも対応可能です。
2	AIレベル定義はプロジェクトマネージャーが対象ですか？	AIレベル定義の補足資料等ではプロジェクトマネージャーを主体に記載していますが、プロジェクトマネージャーにのみならず、すべてのステークホルダーが対象です。
3	AIレベル定義の使い方について教えてください。	例えばAI導入の時に、関与するステークホルダーの課題認識の違い、解決手段の違い、環境の違いにより議論がかみ合わないことがあります。そのようなときに、共通の認識の軸としてAIレベル定義を用います。
4	AIレベル定義はどのように作られましたか？	多様な業界のプロジェクトマネジメント経験者があつまり、2020年から検討して、現在の形になりました。
5	AIレベル定義を引用するときの引用方法を教えてください。	著作権法第32条第1項に定められた「引用」に従い、公正な慣行に合致し正当な範囲内で引用してください。引用部分を明確にし、出所を明示してください。
6	AIレベル定義はアジャイルにも適用できますか？	プロジェクトの進め方によるものではないので、アジャイルにもウォーターフォールにも適用できます。
7	AIレベル定義の特長を教えてください。	AIレベル定義の特長は以下の3つです ①プロジェクト・マネジメントの知識エリア毎に定義がある ②自動化の基準を設け、レベル分けの指標としている ③分類基準と具体例で、万人が理解できる記載としている
8	AIレベル定義の活用や内容の理解に関する支援は受けられますか？	AI@Work WG2に参加いただきご理解いただくか、活動メンバーへの質問を実施ください。
9	AIレベル定義を、WG2の中で、どのように活用されていますか？	WG2内では、各Subの検討時のベースとして、メンバー間の基本情報として活用しています。
10	レベル定義の推しは？	自動運転のAIレベル定義のように、ステークホルダー間の認識のすりあわせとして情報をまとめているため、共通認識が醸成しやすくなります。
11	今後、どういう方向に進む予定ですか？	AIレベル定義をより活用しやすくするために利用例や既往のAIについてのレベル定義の情報等を公開していきます。

AIレベル定義の普及活動(その3)

現在の生成AI(ChatGPT,Copilot,Gemini,PMI Infinity)について、生成AIのレベル定義、および互いのAIレベルの定義を試行し、 PMI日本支部のHPにて公開中。

<https://www.pmi-japan.org/aiatworkcommunity/page-246/>

- PMI Infinityを除きAIレベル定義を正しく認識し、各AIについて相互でAIレベルを定義可能
- PMI Infinityでは、日本支部の活動そのものが認識されておらず、AIレベル定義を正しく認識不可
- Copilotは全般に高めの評価、ChatGPTは自身よりGemini、PMI Infinityの評価が高い
- Geminiが一番妥当的な評価をしていると考えられる



AIレベル定義の試行

AI4PMのSubAグループでは、プロジェクトマネジメント領域におけるAIレベル定義の活用を試行しています。

1. 事例紹介

生成AIによるAIレベル定義の検証

プロジェクトマネジメント領域におけるAIレベル定義にて生成AIのレベル定義、および互いのAIレベルを定義させました。使用した生成AIは、「Microsoft copilot」、「PMI Infinity」、「Chat GPT4.0o」、「Google Gemini」となります。まずChat内でAIレベル定義を認識させることで、AI自身にAIレベルを認識させ、その定義を用いて各生成AIのレベル定義を実施しました。なお、生成日は2024/8/3となります。

生成AIへの質問

質問 1：PMI日本支部のAI@Workが提示するAIレベル定義について教えてください

質問 2：上記AIレベル定義を用いて、〇〇（「Microsoft copilot」、「PMI Infinity」、「Chat GPT4.0o」、「Google Gemini」）がどのレベルに該当するか教えてください。

生成AIによる回答

「Chat GPT4.0」、「Copilot with Bing Chat」、「Google Gemini」、「PMI Infinity」での回答の要約を下表に示します。なお、PMI Infinityの評価で【評価できず】と記載があるところは、PMI InfinityにてAIレベル定義を定義できず、その結果各AIのレベルが定義できなかったことを示します。

被評価AI		ChatGPT	Copilot	Gemini	PMI Infinity
評価AI	ChatGPT	主にレベル2とレベル3の間に位置	主にレベル2とレベル3の間に位置	主にレベル3とレベル4の間に位置	主にレベル3とレベル4の間に位置
	PMI Infinity	評価できず	評価できず	評価できず	評価できず
	Copilot	レベル4に該当	レベル4に該当	レベル4に該当	レベル4に該当
	Gemini	レベル2の「部分的な自動化」を超え、レベル3の「高度な自動化」に該当	レベル3の「高度な自動化」に該当	レベル3の「高度な自動化」を超えている可能性を秘めている完全な自動化（レベル4）を実現するためには、さらなる技術的なブレイクスルーが必要	レベル3の「高度な自動化」に該当

AIレベル定義の普及活動(その4)

2024年日本フォーラムにて、PMIのCEOに事例紹介したときに、英語版の公開の必要性を痛感し、英語版のHPを作成。今後、公開するコンテンツも英語版も作成していく予定

<https://www.pmi-japan.org/aiatworkcommunity/ai-level-definitions-for-project-management/>

AI Level Definition in Project Management

AI Level Definition

Purpose of AI Level Definition

In diverse projects, variations in stakeholders' industry backgrounds, management skills, and knowledge can lead to different interpretations of implementation methods and discussions.

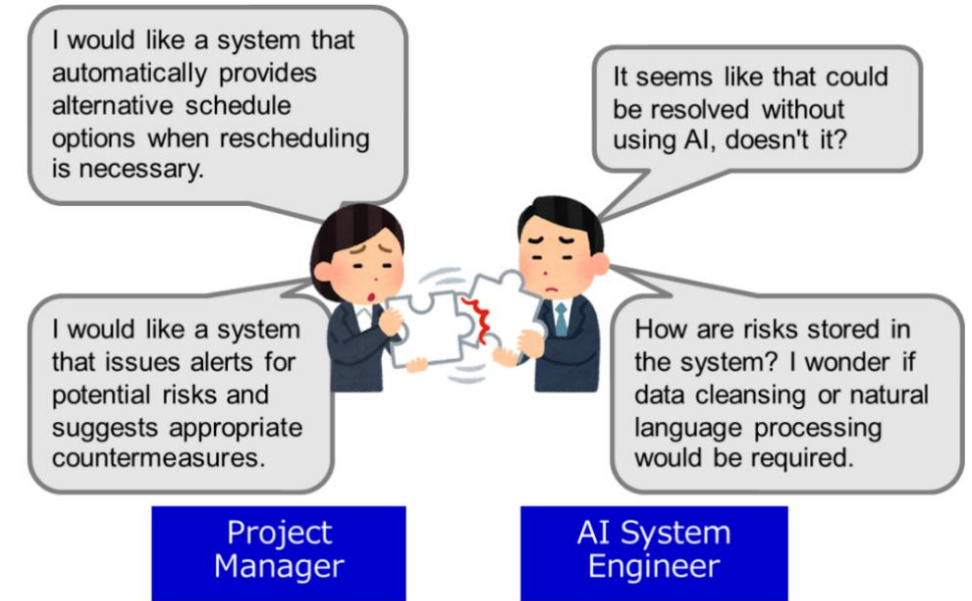


image001e.png

When automating project management activities, it is crucial to address the understanding gaps between stakeholders, such as project managers and AI system engineers, concerning “how” and “to what extent” automation should be implemented.

To bridge these gaps, AI Level Definition were developed as a standardized framework, inspired by the levels of autonomous driving. This framework helps establish a common understanding, regardless of differences in management skills or knowledge.

Overall Structure of AI Level Definition

AI Level Definition provide clear benchmarks for the level of automation achieved in project management tools, categorizing the extent of automation with precise criteria.

AIレベル定義の今後の方向性

AIレベル定義の今後の方向性のために、 ChatGPT-o(2024/11/3版) を用いてPMI グローバルが公表している「Artificial Intelligence and Project Management – A Global Chapter-Led Survey 2024」とPMI日本支部のAIレベル定義を関連づけ試行.。 (AIを用いたプロジェクト運用の試行も含む)

■ プロンプト ■

PMI日本支部のAIレベル定義とArtificial Intelligence and Project Management – A Global Chapter-Led Survey 2024を関連づけて説明し、今後の活動を検討してください。

■ AIレベル定義の普及に向けて今後必要な活動の回答 ■

- AIレベル定義とA Global Chapter- Led Survey 2024との比較による日本におけるAI導入水準の世界との比較
- A Global Chapter- Led Survey 2024等の最新のトレンドのAIレベル定義への反映

【参考】PMI Infinityについて

人材領域におけるAI適用の検討の一例として、生成AIの比較を行い、PMI日本支部のHPにて公開中。

<https://www.pmi-japan.org/aiatworkcommunity/page-217/>

- PMI Infinityは、PMBOKの重要なプロセスからの回答と思われ、PMIらしい解答
- Copilot、Chat GPTはビジネススキルの必要性に触れているが、PMI Infinityは触れていない。
- 実際には、PMBOKの領域だけでなく、ビジネス、問題解決力等が必要であり、提示したシステムスコープを反映した3つの回答ではChat GPTが適している

→現状ではPMI Infinityには課題が多い



人材領域におけるAI適用の検討と試行

AI4PMのSubCグループでは、人材領域におけるAI適用の検討と試行を行っております。

1. 事例紹介

PMコンピテンシーについて生成AIに質問した事例の紹介

生成AIは、PMコンピテンシーに対してどの程度適切な解を提示できるかを試行した事例を紹介します。

生成AIへの質問

S県にある中規模地ビール会社では、新たにAIを用いた地ビールの需要予測システムを構築することになった。プロジェクト期間は半年、予算は5000万円である。このプロジェクトのプロジェクトマネジャーに必要なコンピテンシーを提示してください。

生成AIによる回答

今回は、「Copilot with Bing Chat」、「Chat GPT3.5」、「PMI Infinity」で試行しました。各生成AIの回答を表に示します。なお、【回答なし】と記載があるところは、その生成AIでの回答がなかったものを示します。

回答項目	Copilot with Bing Chat (2023.10.26生成)	Chat GPT 3.5 (2023.10.26生成)	PMI Infinity (2024.3.5生成)
プロジェクトマネジメント能力	プロジェクトマネジャーは、プロジェクトの目標を達成するために、計画、実行、監視、制御、そして閉鎖の各フェーズでスキルを発揮する必要があります。プロジェクトマネジャーは、予算、スケジュール、リソース、品質、リスクなどの要素を管理し、プロジェクトの成功を確保するためにチームと協力して作業します。	プロジェクトマネジャーはプロジェクトの計画、実行、監視、および制御を行う必要があります。プロジェクトのスケジュールを管理し、成果物の納品を確保するためのスキルが必要です。	プロジェクトマネジャーは、プロジェクトの計画、実行、監視、および制御のためのプロジェクト管理方法、ツール、およびプロセスを深く理解している必要があります。
コミュニケーション能力	プロジェクトマネジャーは、チームメンバーやステークホルダーとの効果的なコミュニケーションを行う必要があります。プロジェクトの進捗状況や問題を報告し、解決策を提供することも求められます。	プロジェクトマネジャーはステークホルダーとの効果的なコミュニケーションを確保し、プロジェクトの進捗状況や課題を適切に伝える必要があります。	プロジェクトマネジャーは、利害関係者、チームメンバー、ステークホルダーと効果的なコミュニケーションをとるための強力なコミュニケーションスキルを持つ必要があります。
リーダーシップ	プロジェクトマネジャーは、チームメンバーを指導し、彼らが最高のパフォーマンスを発揮できるように支援する必要があります。また、プロジェクトの目標や方針を明確に伝えることも求められます。	プロジェクトマネジャーはチームを指導し、協力を促進し、メンバーの役割と責任を明確にする必要があります。チームのモチベーションを維持し、コミュニケーションを円滑にするスキルが必要です。	プロジェクトマネジャーは、プロジェクトチームを効果的にリードし、プロジェクトが成功裏に完了するようにするための強力なリーダーシップスキルを有する必要があります。

ビジネス知識	プロジェクトマネジャーは、ビール製造業界に関する知識や経験があることが望ましいです。また、ビール市場や消費者動向などの情報を収集し、需要予測システムの開発に役立てることも求められます。	地ビール業界やS県の市場に関する知識があり、需要予測システムがビジネス戦略にどのように適合するかを理解していることが重要です。	回答なし
技術的知識	AI技術に関する知識や経験があることが望ましいです。また、データ分析や統計学などの技術的なスキルも必要です。	回答なし	プロジェクトマネジャーは、需要予測システムの開発を効果的に管理するために、AIと機械学習テクノロジーを十分に理解している必要があります。
AI理解と専門知識	回答なし	地ビールの需要予測にAIを使用するため、AI技術と機械学習の基本的な理解が必要です。AIに関する知識と経験があることはプロジェクトの成功に不可欠です。	回答なし
リスク管理	回答なし	プロジェクトマネジャーはリスクを識別し、評価し、適切な対策を立案する必要があります。プロジェクトのスケジュールや予算に対するリスクを最小限に抑えるための戦略を策定します。	回答なし
問題解決能力	回答なし	プロジェクトマネジャーは予測せぬ課題や障害に対処するための能力が必要であり、迅速かつ効果的な解決策を見つけるスキルが求められます。	回答なし
プロジェクトの適切な文書化	回答なし	プロジェクトの進捗状況、予算、リスク、変更履歴などの文書を適切に管理し、報告書を作成するスキルが必要です。	回答なし
予算管理	回答なし	回答なし	プロジェクトマネジャーは、予算を管理し、割り当てられた予算内でプロジェクトが完了していることを確認する経験が必要です。
時間管理	回答なし	回答なし	プロジェクトマネジャーは、プロジェクトのタイムラインを効果的に管理し、割り当てられた時間枠内にプロジェクトが完了するようにする必要があります。

プロジェクトコモンデータモデルの検討

プロジェクトエンジニアリング(PJ-Eng)とAI

－プロジェクトマネジメントへのAI活用のためのシステム化－

PJ-Engの必要性その1(生成AIの特性の理解)

AIの処理は、構造の明示により結果が変化(Prompt Engineeringなど)

例) PMI日本支部長のご挨拶 (<https://www.pmi-japan.org/about-pmi-japan/page-545/>) を使った違いの実験例
要約目的; 支部長は、何を指し、何に取り組んでいるのか?を知りたい

要約を指示した場合

⇒要約はされているが、結局わかりづらい

2024年にProject Management Institute, Inc. (PMI)は新戦略「PMI:Next」を発表し、プロジェクトの成功を通じて社会への貢献を目指すことを強調しました。PMI日本支部は、会員数6,000人を超える大きな組織であり、独自の活動やイベントを通じて会員の成長を促進しています。PMI日本支部は、会員ボランティアによって支えられ、プロジェクトプロフェッショナルが能力を磨き、社会に貢献するための場を提供しています。端山毅会長は、PMI日本支部の活動を通じて個人と組織の成長を促し、プロジェクトの成功を目指すことを願っています。

目的に沿って構造化して要約する指示をした場合

⇒目的に沿って情報が集約・整理され、把握しやすい

組織の目的:

PMI日本支部の目的は、プロジェクトの成功を通じて社会に貢献することです。会員の成長を促進し、プロジェクトプロフェッショナルが高め合う場を提供します。

重点的な取り組み:

PMI日本支部は、日本の状況に合わせて独自の発展を遂げています。具体的な取り組みには以下が含まれます:

研究会: 会員が自発的に研鑽と交流を重ねる場を提供。

法人スポンサー制度: 企業と連携し、プロジェクトマネジメントの普及を図る。

戦略委員会: 支部施策を企画展開し、PMIからの支援を活用。

イベント: フェスタや月例セミナーなど、会員ボランティア中心

誰がどのようなアクションをしているか:

会員ボランティア:

PMI日本支部の活動を通じて成長し、プロジェクトの成功を目指す。

理事・監事・事務局:

PMI日本支部の運営を支え、価値を高めるために精励している。

PJ-Engの必要性その2(AI適用の課題)

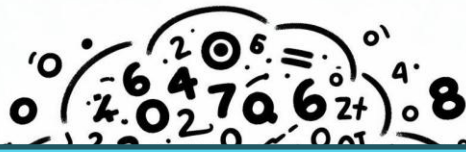
目的に沿った処理のため、**どのような意図があって、どのように処理してほしいかの明確化が必要**
→プロジェクトマネジメント活動へのAI適用においても同様。

Issue & Concern

AIは、情報構造と活用方法が明確でないと、**期待はずれな結果**となり、的確に「運用」「学習」が困難。
プロジェクト情報の特性から学習データの収集が困難

Needs

プロジェクトマネジメントの原理を踏まえた専用AIが必要。
多くの学習データが必要



プロジェクトマネジメントの原理（活動構造）が明確に出来る方法論が必要
プロジェクト情報の特性を考慮した学習データの収集が必要



PJ-Engの必要性その3(AI適用の課題とPJ-Eng)

プロジェクトマネジメントへAI適用時のポイント

- ✓ AIはFunctionの自動化のみ。漫然と使っても期待どおりの支援はしない
→期待する「結果の構造」を前提としたAI活用が必要
- ✓ プロジェクトマネジメントの情報処理の本質は、案件によって不変
→プロジェクトマネジメントのノウハウを踏まえて構造化されたデータは、AI活用にも有利
→データ構造化で必要最低限のデータとすることでプロジェクト情報の問題も解消
- ✓ プロジェクトマネジメントの構造化手法として、「プロジェクトエンジニアリング(以降PJ-Eng)」が提唱されている

例)

- ・コトバンク「プロジェクトエンジニアリング」

<https://kotobank.jp/word/%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88%E3%82%A8%E3%83%B3%E3%82%B8%E3%83%8B%E3%82%A2%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%82%B0-867095>

PJ-Engとは

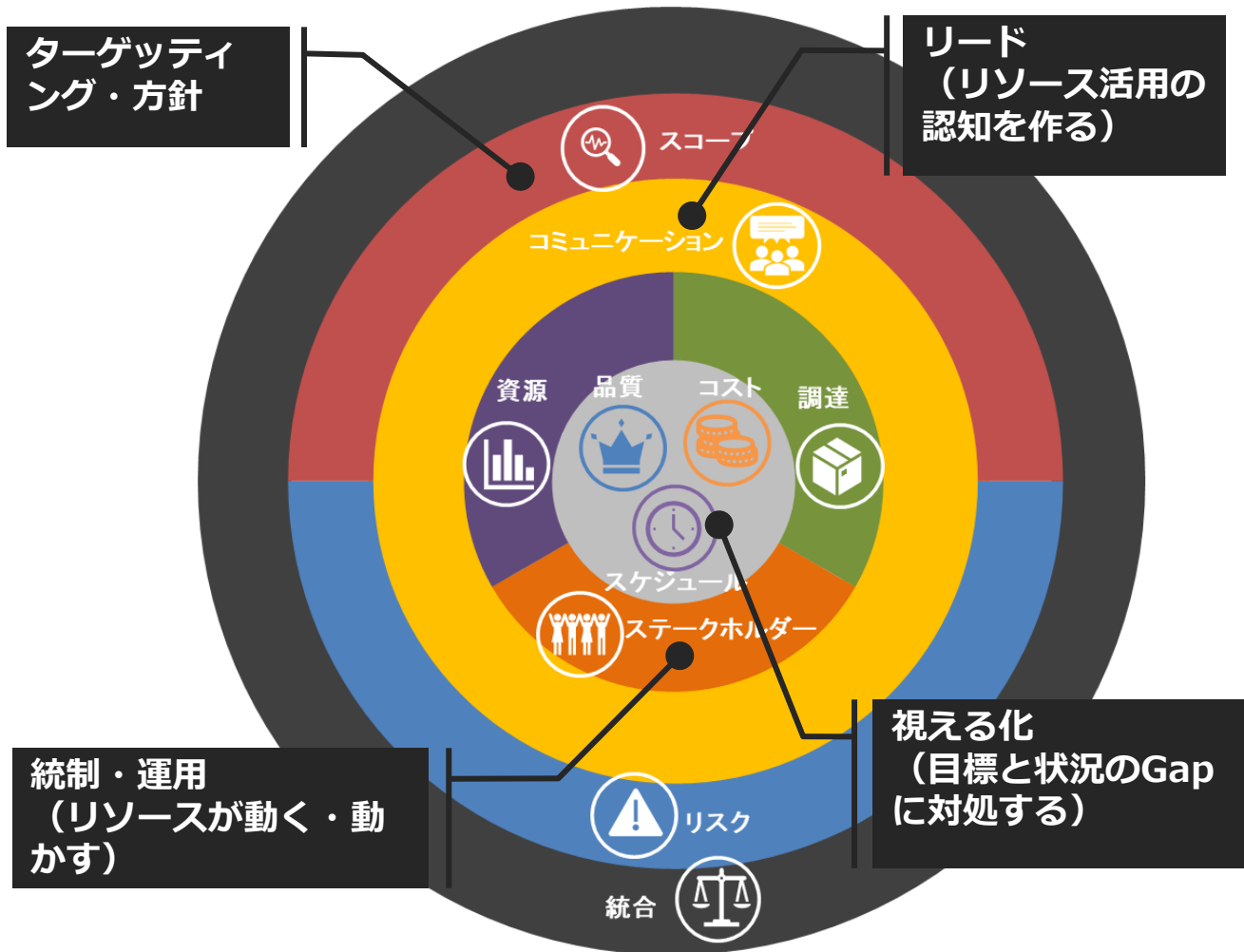
プロジェクトマネジメント活動は、目的達成のための具体的手段として実施

目的達成のためには・・・

- ①前提・拘束条件； ゴールを明確化し、達成するのに必要な要素は何か
 - ②戦略・戦術； どの様にその要素をそろえるか？障害を回避するか？の計画（達成までのRisk回避策と行動計画）
 - ③統制・運用； 計画通りに進んでいるか計測するルールと軌道修正
 - ④リーダーシップ等； メンバーが的確な行動をとる仕掛け
- が、そろっている事が必要。



PJ-Engはプロジェクトマネジメント活動を構造分解したフレームワーク

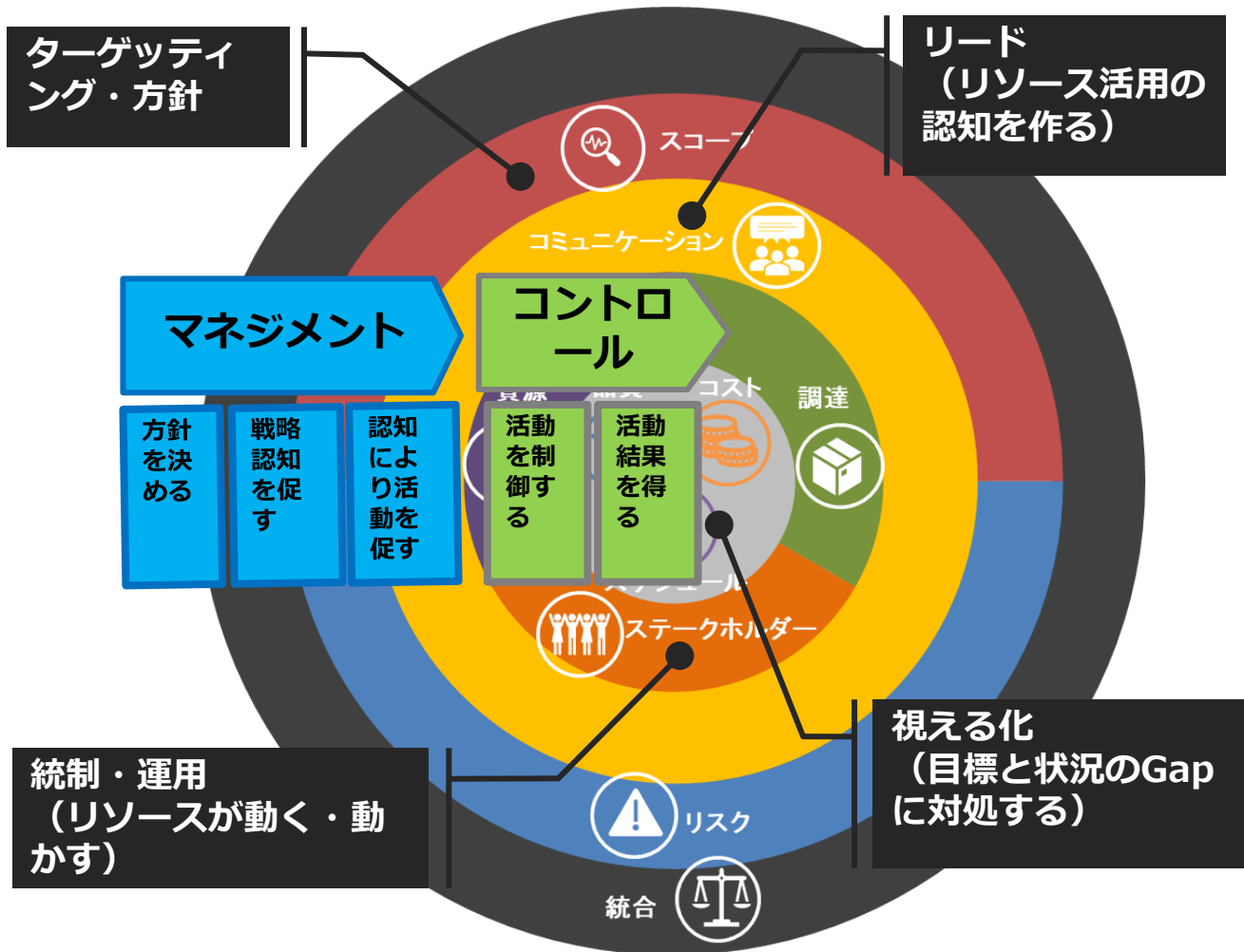


- ✓ プロジェクトマネジメント活動をSystemととらえ、その活動を設計・実行するもの
- ✓ 各活動のツール化だけではなく、それらのデータをつなぎ合わせて活用するのがPJ-Engの特徴



- プロジェクトマネジメント活動をSystemととらえるPJ-Eng。プロジェクトマネジメント活動へのAI適用は、Systemの自動化が目的となるため、プロジェクトマネジメント活動へのAI活用の近道。
- Systemがゆえに、実行組織のマネジメント成熟度によって、そのままでは実現レベルが異なってくる点に注意が必要。

PJ-Engはプロジェクトマネジメント活動を構造分解したフレームワーク



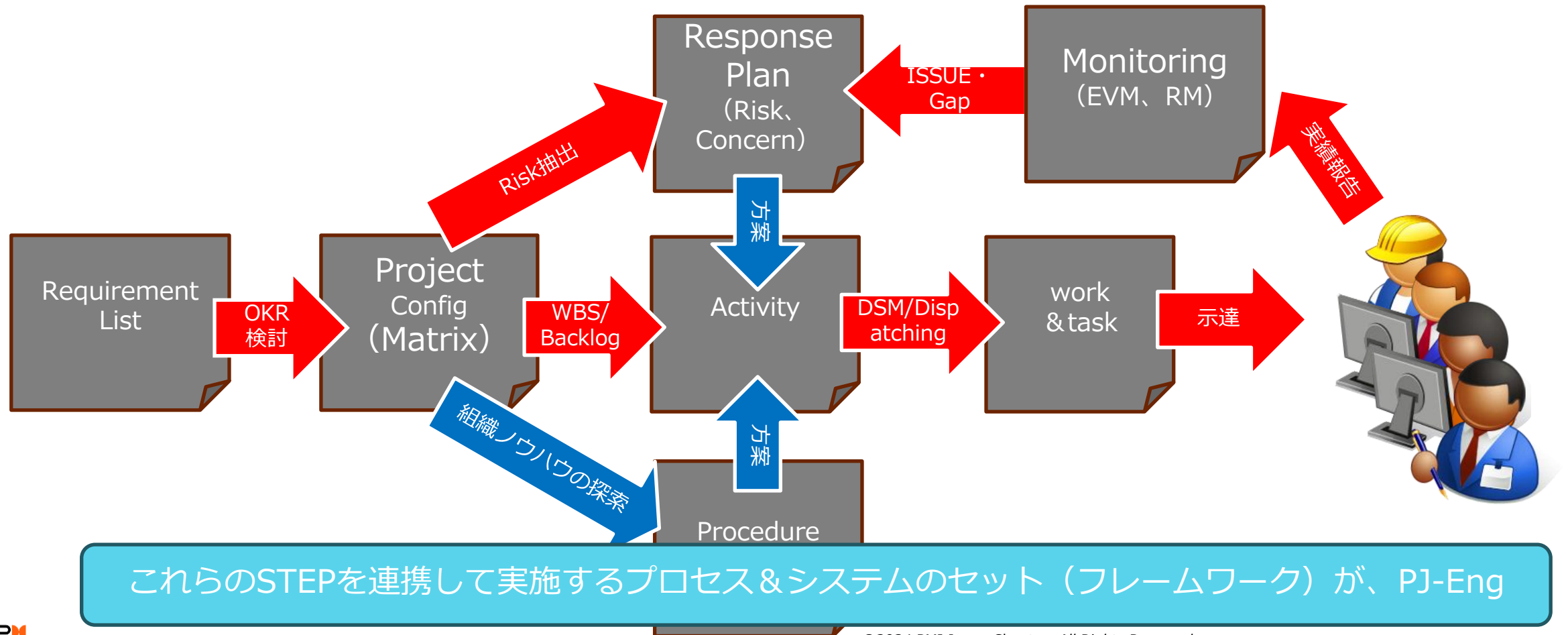
- ✓ プロジェクトマネジメント活動をSystemととらえ、その活動を設計・実行するもの
- ✓ 各活動のツール化だけではなく、それらのデータをつなぎ合わせて活用するのがPJ-Engの特徴



- プロジェクトマネジメント活動をSystemととらえるPJ-Eng。プロジェクトマネジメント活動へのAI適用は、Systemの自動化が目的となるため、プロジェクトマネジメント活動へのAI活用の近道。
- Systemがゆえに、実行組織のマネジメント成熟度によって、そのままでは実現レベルが異なってくる点に注意が必要。

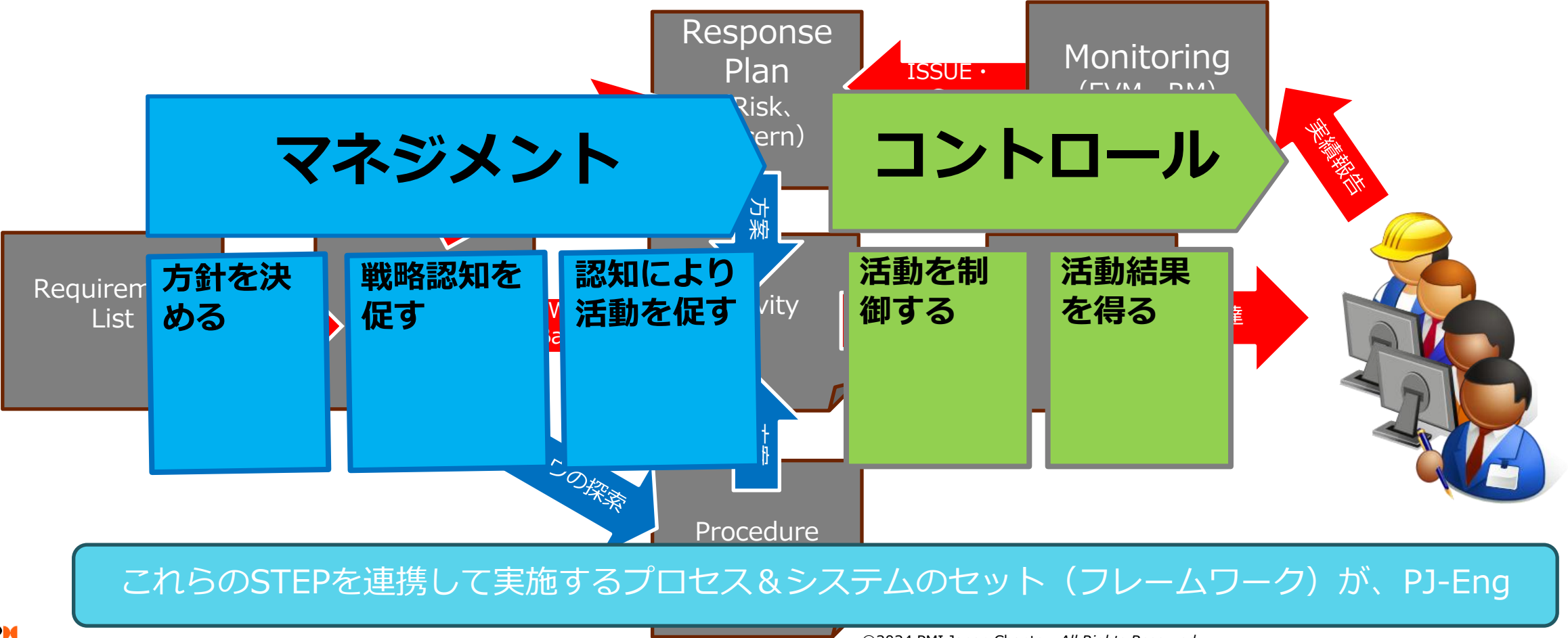
PJ-Engフローの模式化

プロジェクト・マネジャーの感覚や経験論であった**目的達成の情報構造・相関性・確率（プロジェクトマネジメントオントロジー）**をフレームワークで**既知化・集計可能**にすれば、AI化が可能



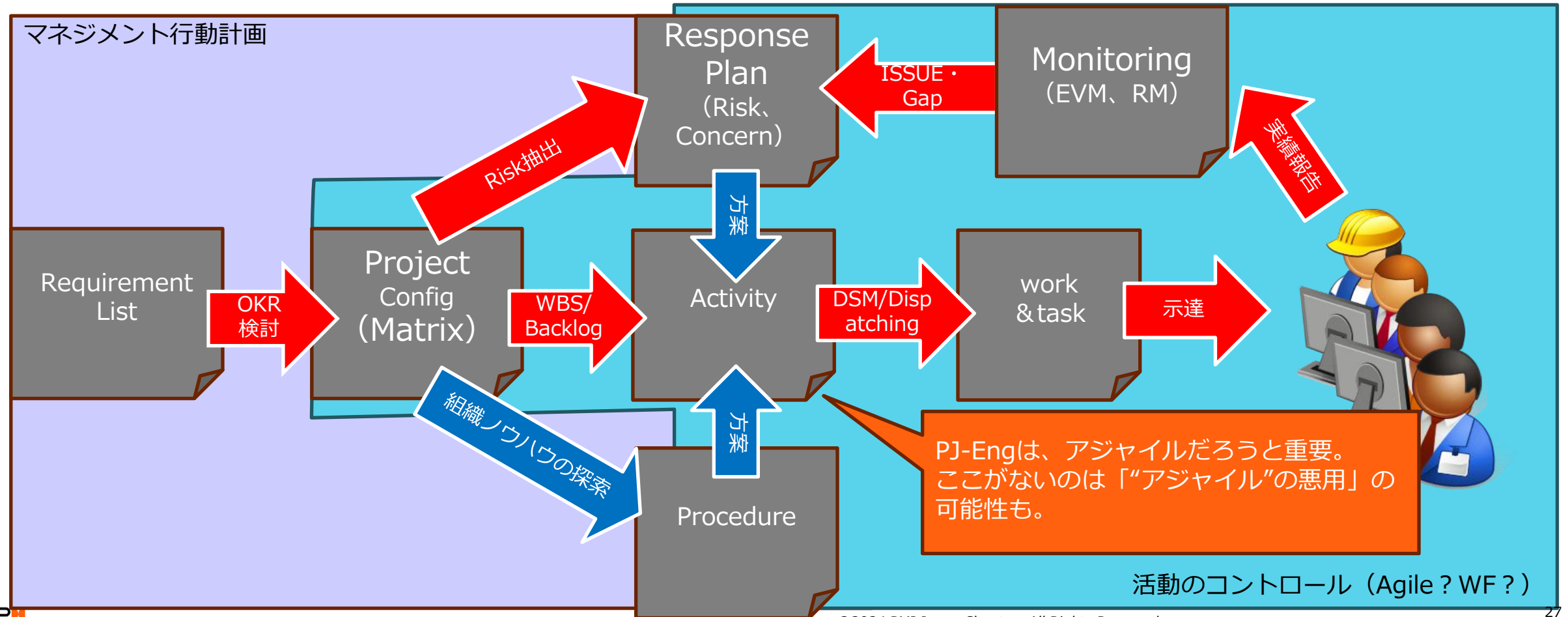
PJ-Engフローの模式化

プロジェクト・マネジャーの感覚や経験論であった目的達成の情報構造・相関性・確率（プロジェクトマネジメントオントロジー）をフレームワークで既知化・集計可能にすれば、AI化が可能



PJ-Engフローの模式化

プロジェクト・マネジャーの感覚や経験論であった目的達成の情報構造・相関性・確率（プロジェクト・マネジメント・オントロジ）をフレームワークで既知化・集計可能にすれば、AI化が可能

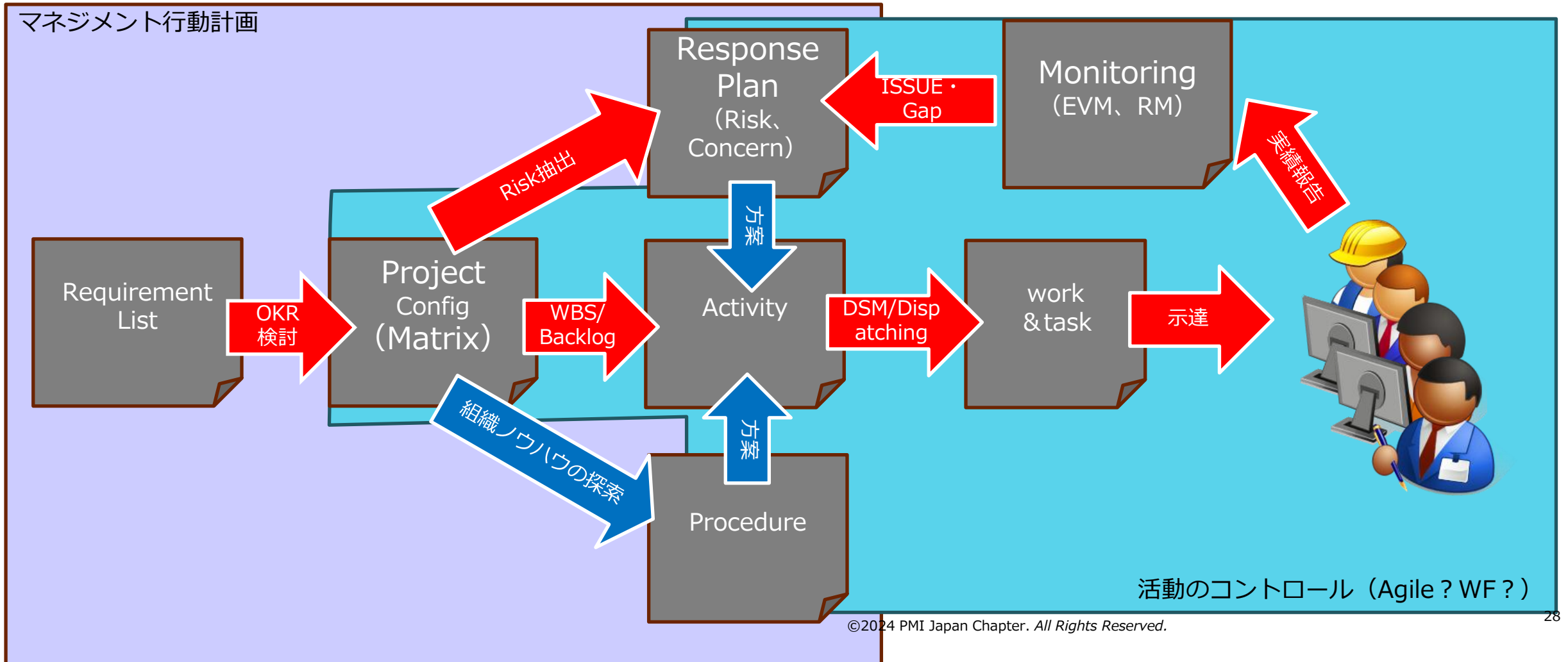


PJ-Engから見たプロジェクトマネジメント特化AIの未来

PJ-EngによりAI使用の目的と使用法も変化。

PJ-Eng補助AI(現在あまりない)とIoT的AI(既往AIの流用が可能)。

PJ-EngによりPJ-Eng補助AIとIoT的AIを組み合わせ、2つのAIをつなげるデータモデルの検討によりプロジェクトマネジメントに特化したAIが開発可能



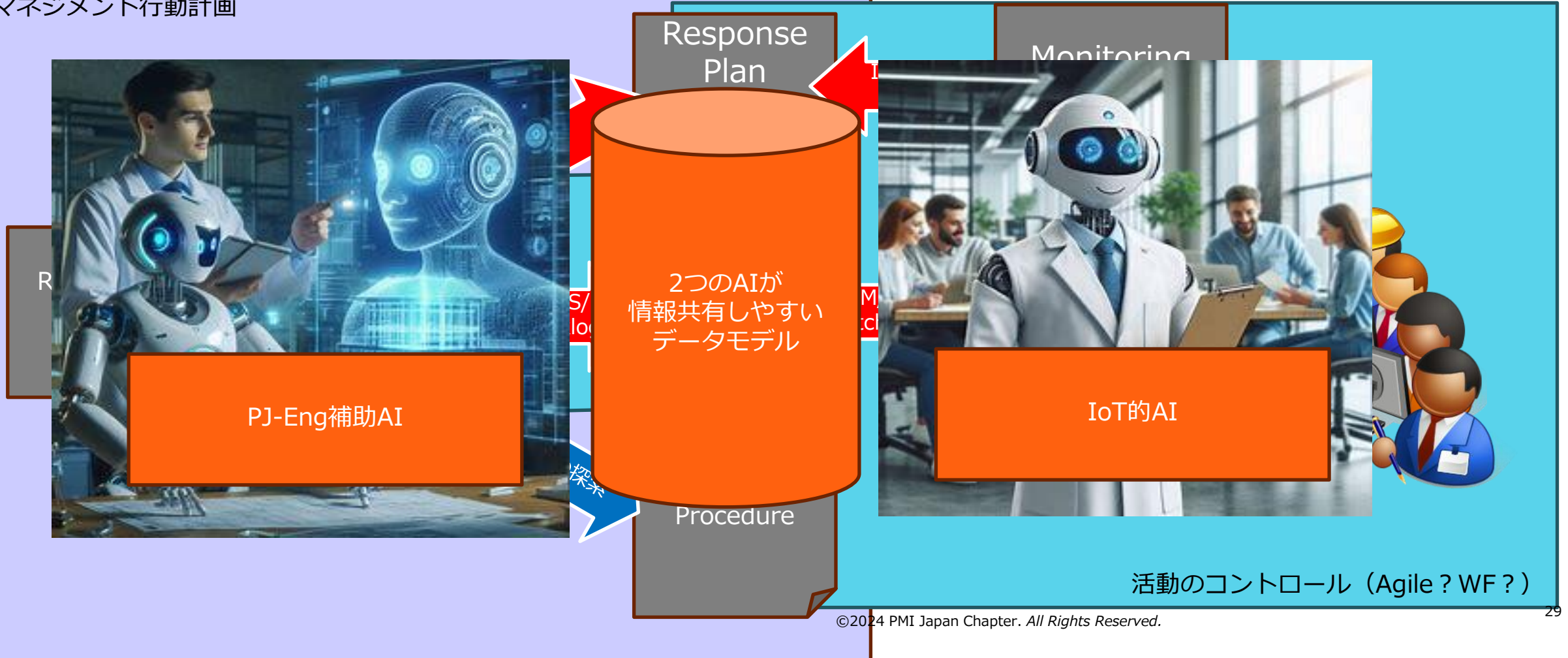
PJ-Engから見たプロジェクトマネジメント特化AIの未来

PJ-EngによりAI使用の目的と使用法も変化。

PJ-Eng補助AI(現在あまりない)とIoT的AI(既往AIの流用が可能)。

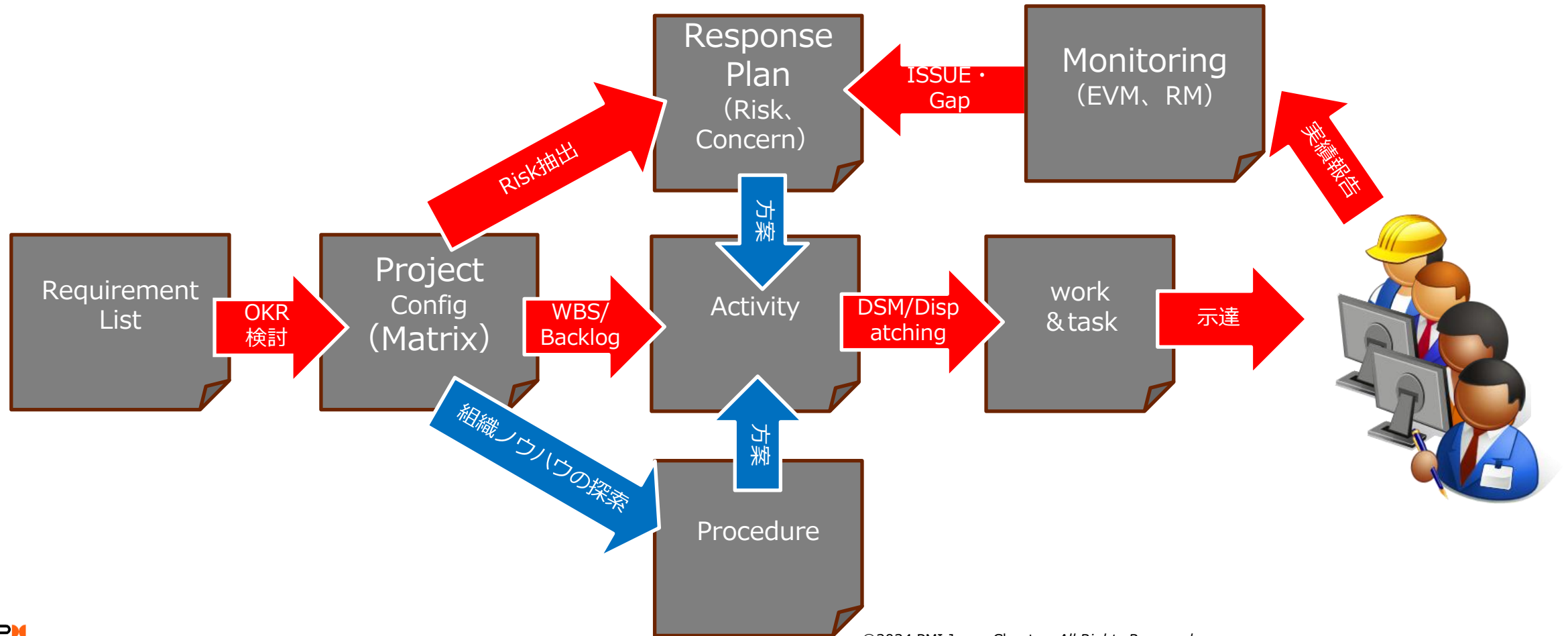
PJ-EngによりPJ-Eng補助AIとIoT的AIを組み合わせ、2つのAIをつなげるデータモデルの検討によりプロジェクトマネジメントに特化したAIが開発可能

マネジメント行動計画



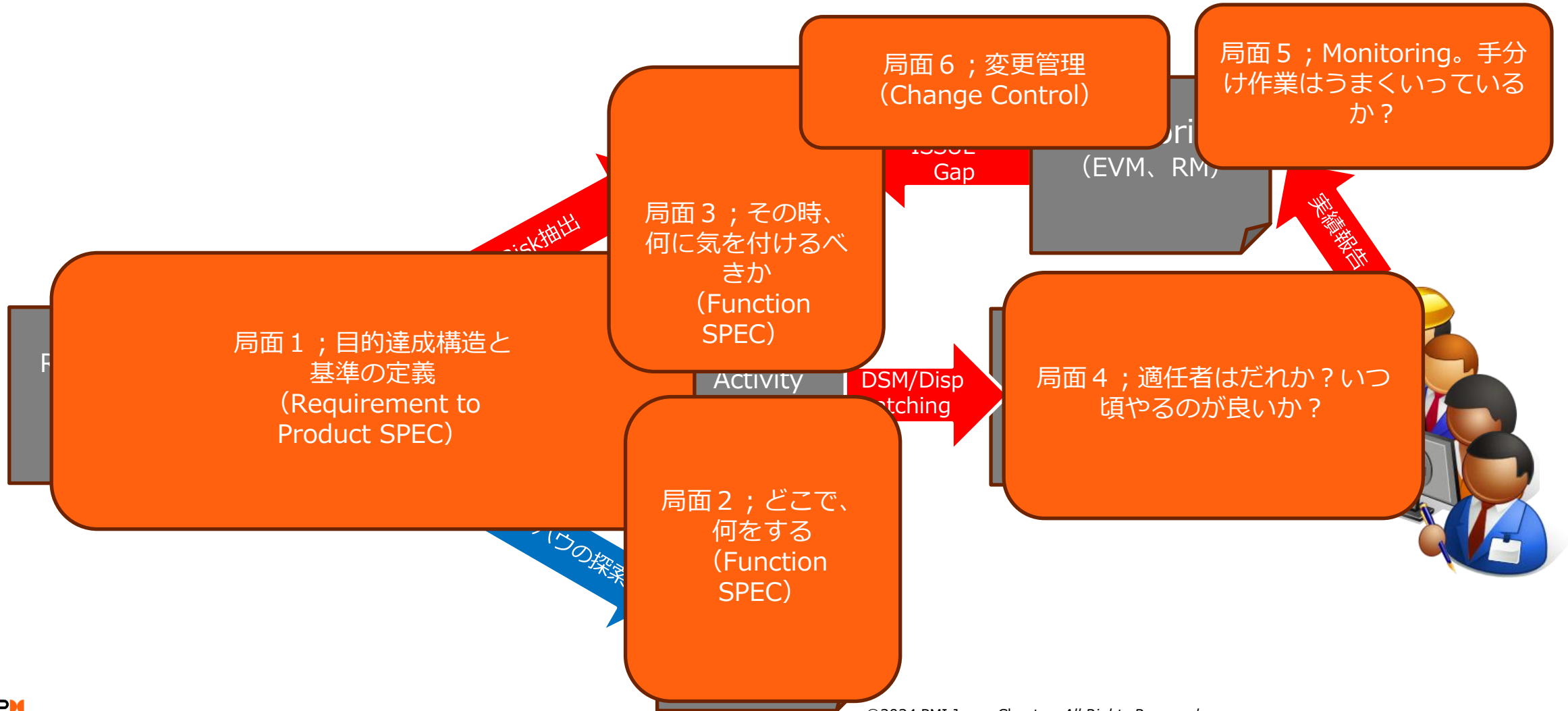
PJ-Engの局面化（ユースケースとしてとらえると）

プロジェクトマネジメント活動は大きく以下の6局面（活動目的と原理）に分割可能
⇒この局面ごとにシステム化・AI化の検討を実施中



PJ-Engの局面化（ユースケースとしてとらえると）

プロジェクトマネジメント活動は大きく以下の6局面（活動目的と原理）に分割可能
⇒この局面ごとにシステム化・AI化の検討を実施中



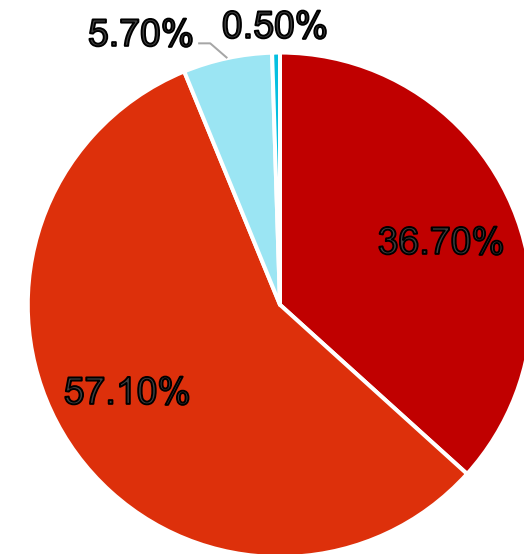
2024年の活動の振り返り

2024年日本フォーラムでの反応

全体的には高評価(93.8%)。PJ-Eng活動への興味が深い。マイナスのコメントの中には見るべき意見も多い。

- A I レベル定義は使い物になるか？
- 何故それを検討しているのかが伝わりづらく、部外者には内容が把握しづらかった。
- あくまで研究目的で実務的ではないと感じた。
- 消化不足
- 内容も本当に実現できるの？というようなものも少なくなかった。
- 成果がでなかった説明や、こうしたいという思いは伝わったが正直得るものは少なかった。

2025年は、これらのコメントに対応していきたい



■ 大変良かった ■ 良かった ■ 良くなかった ■ 全く良くなかった

2025年のAI4PMの活動方針(ドラフト)



WG2の全体目的

プロジェクトマネジメントを最適化するために、AI技術の適用方法を研究する。

2025年活動の具体的な内容

1. AIの最新状況の共有とワークショップ(試行結果共有やメンバによる試行)(WG2全体)
2. プロジェクトマネジャがAIを導入できる環境づくり、情報発信(SubA中心)
3. グローバルの状況の調査とAIレベル定義整備(SubB中心:新規)
4. 2024年成果のまとめとプロジェクト組織運営でのAI活用の研究(SubC中心)
5. AI領域におけるプロジェクトコモンデータモデルについての検討(SubD中心)

※WG2の運用にAIツールを適用し、その情報も適宜共有予定

※サブグループ分けているが、WGやAI@Work全体で横断的に検討

AI4PMが考える将来

AI4PMが考える将来

今までのプロジェクトでは、プロジェクト・マネジャーやステークホルダーに負荷がかかり、プロジェクトが失敗する確率が高いと考えられる。

AIが真の意味でプロジェクトに導入されれば、...

AIが必要なときに助言や処置を自動的に行うため、プロジェクト・マネジャーやステークホルダーの負荷が減り、プロジェクトが回るようになる。

その結果

プロジェクトの成功率上昇や企業の生産性向上が見込め、ステークホルダーが幸せになる。

今までのプロジェクトだと、

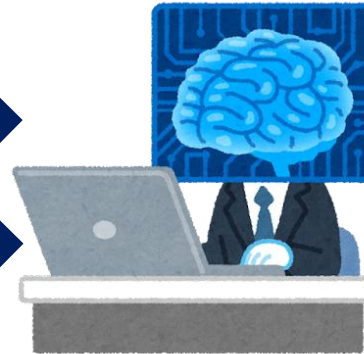


AI4PMが考える将来

プロジェクト・マネジャー・PMO

スポンサー

AIによるPMの最適化



AI開発者

全てのステークホルダーが幸せになるようなプロジェクトを実施

プロジェクト・メンバー

顧客

本資料および動画の著作権について

本資料および動画の著作権は、PMI日本支部に帰属しています。

本資料および動画の一部分または全部を著作権者に無許可で複製、転載、

公衆送信、口述、上映、出版、頒布、貸与、編集するなどして使用

することは著作権法に反することとなります。